

構築会兵庫支部 平成10年度見学会の概要

平成10年度の見学会(7月開催)は、この4月に供用開始されて間もない世界最長の吊橋明石海峡大橋をバスで渡って淡路島を縦断、さらに大鳴門橋を経由した後、徳島県鳴門市の北東端に本年3月に開館した大塚国際美術館を訪れました。

これまでとは趣を異にした企画のためか50名という史上最高の参加者となりました。当日は、当美術館の概要や開館にまつわるご苦労話を大塚オーミ陶業(株)増田専務からお聞きしながら、世界の1,074点の名画の複製の陶板が展示されている館内を巡りました。また、ご来賓として構築会孝石欣一会長と建築工学専攻長の大野義照教授が見学会から、土木工学専攻長の中辻啓二教授が懇親会から参加してくださいました。

大塚国際美術館は、大塚グループが創立75周年事業として、その発祥の地である鳴門市に建設した日本最大級の常設展示スペースを有する陶板名画美術館です。館内で展示される作品は、至宝の西洋名画1,000余点を大塚オーミ陶業(株)の特殊技術によってオリジナル作品と同じ大きさに複製されたものだそうです。また、延べ床面積29,000㎡あまり、地下5階・地上3階の規模を持つこの建物は、鳴門の美しい環境や景観を守るために、山をくり貫くような形で建設されました。建設場所にその発祥地を選んだのは、会社をここまで大きく育ててくれた地元への恩返しの気持ちが込められているとのことでした。

現地の状態をできるだけ再現したミケランジェロのシスティーナ礼拝堂の天井画、壁画などの環境展示から始まりピカソのゲルニカに至るまで、世界の名画がふんだんに展示されており、2時間では時間が足りないほどでした。実際、作品をじっくりと鑑賞しようとするれば1日がかかりになるかもしれません。陶板は褪色劣化しないため、これらの作品が2,000年以上色褪せることなく保存されるという説明に感心し、実物大の迫力に感激しながら、後ろ髪を引かれる思いで博物館をあとにして、洲本市内の懇親会場に向かいました。大汗をかきかきアナゴのしゃぶしゃぶに舌鼓を打ちつつ、隣の人も大声で話さないといけないという賑やかな懇親会でした。

あっという間に時間が過ぎ、明石海峡大橋のイルミネーションが変化する午後9時の瞬間を淡路サービスエリアで鑑賞する予定でしたが、一瞬遅くその瞬間は見られなかったものの、夜空に輝く大橋の美しさと夜景に一同満足して帰途につきました。